



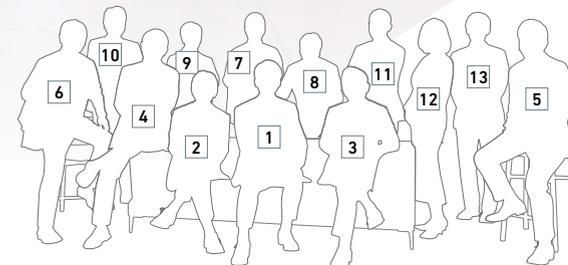
Gear Change – 新生丸紅スタート



Management Team

Gear Change

新生丸紅スタート。更なる高みを目指し、利益成長・企業価値向上を加速



代表取締役 社長

① 大本 晶之

代表取締役 副社長執行役員

② 及川 健一郎

CDIO、情報ソリューション部門、次世代事業開発部門、
次世代コーポレートディベロップメント部門統括役員

代表取締役 専務執行役員

③ 古谷 孝之

CFO

専務執行役員

④ 堀江 順

CAO、監査部担当役員補佐、秘書部担当役員補佐

⑤ 横田 善明

エネルギー・化学品部門、
電力・インフラサービス部門統括役員

⑥ 板井 二郎

金融・リース・不動産部門、
エアロスペース・モビリティ部門統括役員

常務執行役員

⑦ 武智 康祐

ライフスタイル部門、食料・アグリ部門統括役員

⑧ 桑田 成一

金属部門統括役員

⑨ 鹿島 浩二

CHRO

⑩ 原田 悟

エネルギー・化学品部門、
電力・インフラサービス部門統括役員補佐

⑪ 水野 博通

CSO、国内統括

執行役員

⑫ 若山 美奈子

経営企画部長

監査役

⑬ 安藤 孝夫



Gear Change – 新生丸紅スタート

中長期的な企業価値向上に向けて

次の成長ステージへギアチェンジ

丸紅グループは2031年3月期までに時価総額10兆円超を目指します。長期的な企業価値向上に対する経営の姿勢をコミットする意味で時価総額目標を公表しました。GC2027は「成長加速の3年間」。GC2021、GC2024に続き2031年3月期へ向けて企業価値向上を目指す、長期的な経営戦略の第3段階です。前中期経営戦略GC2024では収益基盤・財務基盤を強化することができました。この好調な流れを引き継ぎ、次なる高みへ向けて成長を加速させます。

中長期的な 企業価値の向上

2031年3月期 目標

時価総額
10兆円超

2025年3月期

時価総額
5兆円到達

2028年3月期

2022年3月期

時価総額
約**1.7**兆円

GC2021

変革の3年間

GC2024

戦略実践の3年間

中期経営戦略 GC2027

成長加速の3年間

次の成長ステージに向け経営のギアチェンジを図り、利益成長・企業価値向上を加速させる

GC2027 定量目標

連結純利益	基礎営業 キャッシュ・フロー	総還元性向	ROE
6,200 億円以上 (2028年3月期) (CAGR* 10%程度)	20,000 億円 (3カ年累計)	40% 程度 累進配当の継続	15%

※ 年平均成長率。CAGR10%程度は、2025年2月に公表した2025年3月期の見通し実態純利益(連結純利益から一過性要因を控除した概数)4,600億円を起点とした2028年3月期までの数値

Gear Change – 新生丸紅スタート



中長期的な企業価値向上に向けて

ROEの維持・向上、PERの向上により、 企業価値の向上を目指す

丸紅グループは中長期的な企業価値の向上に向けて、利益成長の持続的な達成、当社の特徴である高いROEの維持・向上に向けた取り組みを継続します。今後はPER向上に資する取り組みも一層加速させ、時価総額の拡大を目指します。

企業価値の向上

ROEの維持・向上

- ・収益基盤の継続的な強化
- ・戦略的な資本配分
- ・資本効率の改善

PERの向上

- ・財務レバレッジの適正化
- ・業績ボラティリティの低減
- ・非財務価値の向上

主な成果 (2025年3月期)

ROE
14.2%

純利益
5,030億円

成長投資
約5,200億円

基礎営業キャッシュフロー
6,066億円

実態純利益
4,510億円

回収
約1,600億円

主な成果 (2025年3月期)

総還元性向
約47%

ネットDEレシオ
0.54倍

信用格付(S&P)
BBB+

1株当たり配当金
95円

MSCI ESG RATING
AAA

信用格付(Moody's)
Baa1

非資源分野を中心とした既存事業領域を強化する取り組みにより、年間4,500億円超の収益基盤を確立しました。今後も既存事業の磨き込みや拡張を通じて更なる利益成長を目指します。また成長ドライバーである事業投資は資本効率の高いモデルに重点的に行い、同時に成長なき事業からの回収を促進することで質の高い事業ポートフォリオへと改善を続けていきます。

商品市況に左右されにくい非資源ビジネスの強化により、下方耐性のあるビジネスポートフォリオを構築してきました。今後も利益目標の達成や成長投資で結果を示し、将来見通しに対する不確実性の払拭を目指します。2023年3月期より導入した累進配当の継続、信用格付の更なる向上やグリーンへの取り組み、ガバナンスの強化など非財務価値向上に資する施策も推進していきます。

Gear Change – 新生丸紅スタート



丸紅グループ主要事業 At a glance

多様な産業に展開、世界規模の事業ポートフォリオ

<p>Helena 米国農業資材リテーラー 販売シェア全米 2位</p>	<p>Nowlake Technology 中古車販売金融事業 米国独立系 1位</p>	<p>SmartestEnergy 大型需要家向け電力小売販売量 全英 3位</p>	<p>持分権益銅量 約 16万トン</p>	<p>穀物・油糧種子輸入シェア 約 20%</p>
--	--	--	----------------------------------	--------------------------------------



A 農業資材販売事業：
Helena



B 農業資材販売事業：
Adubos Real



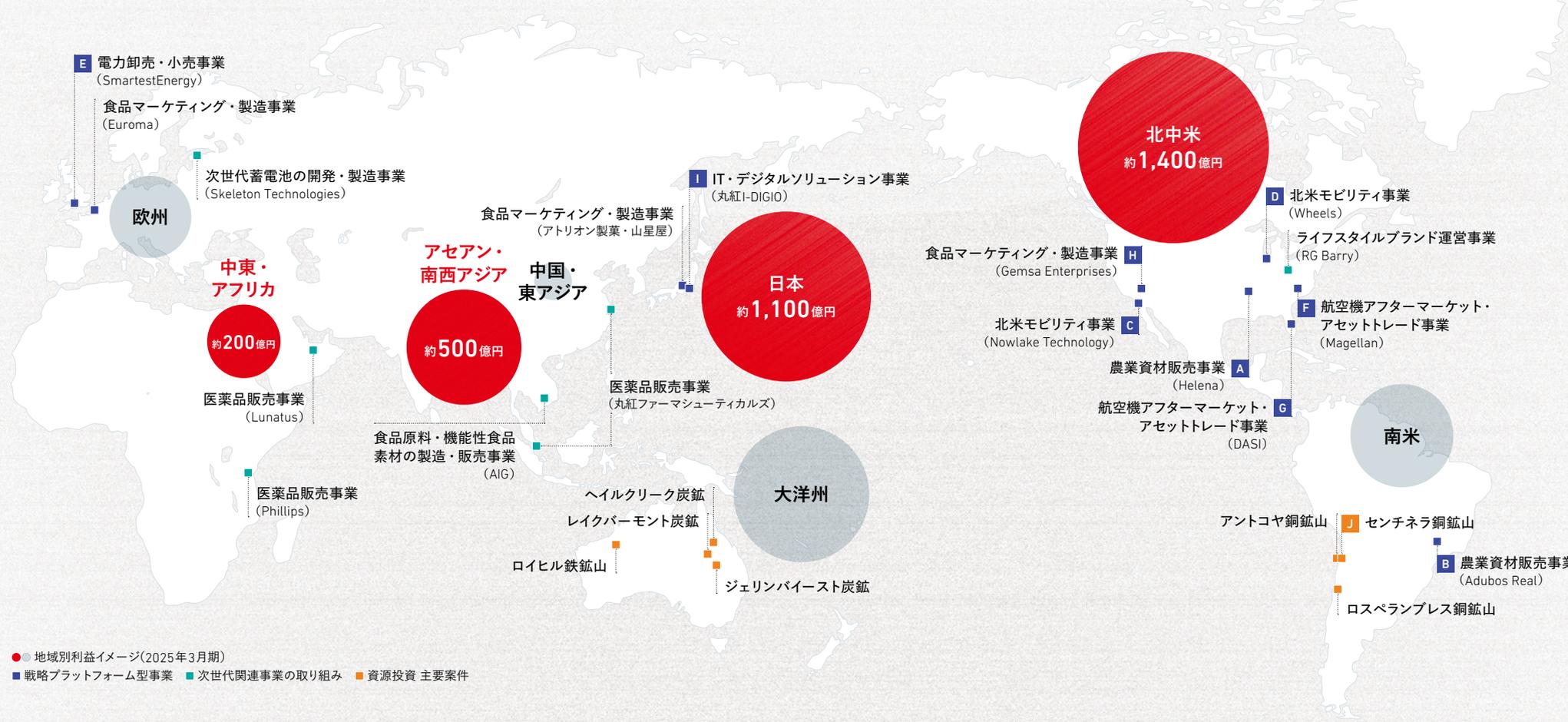
C 北米モビリティ事業：
Nowlake Technology



D 北米モビリティ事業：
Wheels



E 電力卸売・小売事業：
SmartestEnergy



F 航空機アフターマーケット・アセットトレード事業：
Magellan



G 航空機アフターマーケット・アセットトレード事業：
DASI



H 食品マーケティング・製造事業：
Gemsa Enterprises



I IT・デジタルソリューション事業：
丸紅I-DIGIO



J 金属事業：
センチネラ銅鉱山



情報開示体系



統合報告書2025発行にあたって

当社は統合報告書を、ステークホルダーの皆様との建設的な対話を促進し、持続可能な価値共創を実現するための重要な媒体と位置付けています。編集にあたっては、丸紅グループの価値創造の歩みをより深く、鮮明にお伝えすることに注力しました。また、前年の統合報告書に対するステークホルダーの皆様からのフィードバックを反映し、より読者のニーズに応える内容となるよう改善を重ねました。

丸紅グループは、「ROEの維持・向上」および「PERの向上」を軸に、中長期的な企業価値の向上を目指しています。本年の統合報告書もこれらを基本方針としつつ、中期経営戦略GC2027の初年度であることを踏まえ、同戦略への理解促進にも力を入れました。前中期経営戦略GC2024からの大きな方向転換はないため、報告書の構成自体は大きく変えていませんが、「回収の促進」・「資本効率を意識した事業ポートフォリオの構築」や「戦略プラットフォーム型事業」など、GC2027の特徴について随所で解説しています。

更に、長期的な企業価値創造の基盤となる人的資本経営の深化や非財務価値の向上についても、グループ人材の強化やグリーン分野への取り組みなど、具体的な施策を交えてご紹介しています。制作にあたっては、IFRS財団の国際統合報告フレームワークや経済産業省の価値協創ガイダンスも参照しています。

本報告書を通じて、次の成長ステージに挑む丸紅グループの挑戦と進化を、より深くご理解いただければ幸いです。なお、詳細情報や補足情報については、当社ウェブサイト等の開示媒体との連携を強化し、必要な情報へのスムーズなアクセスを可能にしています。

